

2014 年 9 月

工場見学の旗振り

工場見学のバスが正門前の道路に入ってくる。道路の両側に社員が勢揃いして三菱の旗を振って迎える。帰りもバスの姿が見えなくなるまで見送る。そんな光景がずっと続いた。◆最初はぎこちなく、気恥ずかしく、正直苦痛だったが、バスの中から手を振ってくれるお客様の笑顔が励みになった。お客様や関係者から大変好評だった。旗の振り方や姿勢など、細かく指導された。◆工場見学の多くは、水上や伊香保の温泉へ行く途中の研修名目。見学は二の次？。そんな工場見学に旗振りが一役買い欠かせなくなった。◆その旗振りも昔はいろいろ苦労があった。いつ到着するかわからない。今のように携帯電話もないため、到着予定の30分位前に、会社の車で担当が高林交差点へ行って待機する。バスが通過したら公衆電話で会社へ連絡する。到着が早すぎて間に合わないこともしばしば。◆真夏や真冬の旗振りは大変だった。冬は空っ風が吹き荒ぶ中、夏は炎天下。バスの中から気の毒そうに手を振ってくれていた。◆この旗振りは、ホーム機器にも引き継がれた。今、この旗振りはどうなっているだろうか。懐かしい思い出です

余談ですが、この思い出を書いている、工場見学について、ひとつの企画が浮かんだ。題して「世界遺産・富岡製糸場と三菱工場見学日帰りバスツアーの旅」。今、富岡製糸場をからめたツアーの企画が目白押し。そこで、馬電とMHKの工場見学をからめたツアーを企画してみた。＜見学コース＞①「世界遺産・富岡製糸場」見学②富岡製糸場ゆかりの「渋沢栄一」生家見学③「三菱電機群馬製作所」工場見学④「三菱電機ホーム機器」工場見学と調理実演。＜行程＞（東京 8:30）→「富岡製糸場見学」→「おぎのや(昼食:峠の釜めし膳)」→「三菱電機群馬 製作所見学」→「渋沢栄一生家見学」→「三菱電機ホーム機器見学と調理実演」→（東京 18:30）・会社から「そんな余裕はない!」「よけいなお世話!」と一喝されそうですが。単なる「思いつき」です。暇なOBの戯れ言と一笑に付してください。